氏名（生年月日）	木原弘晶（昭和 57 年 6 月 27 日）
本籍	和歌山県
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲 第４５２号
学位授与の日付	平成２６年３月２７日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
学位論文題目	**Near-infrared spectroscopy を用いた双極性障害の家族集積性の研究**
論文審査委員	主査 松井 真
	副査 加藤伸郎
	赤井卓也

論文審査結果の要旨

本研究は、近赤外線スペクトロスコピー(NIRS)を用いた光トポグラフィー検査を用いて双極性障害を有する患者の家族集積性の有無で、疾患に質的な差が存在するのか否かを明らかにすることを試みたものである。双極性障害は躁症状が出現するまで 10 年以上も診断がつかない例があり、本研究では、脳の活動性を定量的に測定できる可能性のあるデバイスとして近年注目されている NIRS の波形変化の相違を、同疾患の診断や質的評価に用いられないかという仮説に基づいて、研究デザインが構築された。先ず、臨床的診断で双極性障害を有する患者を抽出し、それらの患者のうつ症状期において光トポグラフィー検査を行ない、その中から、従来の研究で明らかにされている双極性障害患者の特徴とされる NIRS 波形パターンを有する患者のみを研究の対象とした。すなわち、光トポグラフィー検査の信頼性が高いと推定される患者のみを対象とした点が画期的である。そこで、患者群を家族集積性のある群とない群に分けて解析をした結果、従来研究報告の多い前頭葉ではなく、劣位側の側頭極の重要性が明らかにされた。それは、家族集積のある患者では劣位側の側頭極が病初期から賦活課題に対する反応性が低いのに対して、弧発例の患者では罹病期間とともに反応性が進行性に低下するという事実である。本研究は、家族集積性のある双極性障害が家族集積性のない同疾患とは生物学的に異なることを明らかにし得ただけではなく、劣位側側頭極の重要性を明らかにした点で独創性の高いものである。さらに、NIRS による光トポグラフィー検査が他の精神疾患の脳機能解析にも有用である可能性を示した点で意義ある成果を上げたと評価することができる。

以上により，本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと認められる。

（主論文公表誌）

金沢医科大学雑誌　第 39 巻　第 1 号　平成 26 年（公表予定）